

#### (4) 水道施設・管路の耐震化と経年管の状況、鉛製給水管残存状況

平成 29 年度末の全国の水道施設の耐震化の状況は、浄水施設の耐震化率は 29.1%、配水池の耐震化率は 55.2%、基幹管路の耐震適合率は 39.3%と依然として全体的には低い状況にある。

大阪府全体における平成 30 年度末の浄水施設の耐震化率は 22.4%、配水池の耐震化率は 46.3%、基幹管路の耐震適合率は 47.0%、法定耐用年数 40 年を超えた老朽化管路率は 31.7%となっている。(P.48~50 参照)

平成 29 年度における全国の耐震管布設状況と法定耐用年数(40 年)超の管延長は、次頁のとおりで、大阪府が残存延長と残存率で全国ワーストとなっている。(表一八)

また、鉛製給水管の残存状況については、残存延長は全国ワーストではないものの、残存件数は全国ワーストとなっている。(表一九)

各事業体においては、アセットマネジメント手法を活用して、綿密な耐震化・更新計画を立案し、早急に水道施設・管路の耐震化、鉛製給水管の更新に向けた取り組みを進める必要がある。

表一八 水道管路の耐震化状況と経年管の状況(全国比較) 【平成 29 年度水道統計より】

耐震管の延長・割合(配水支管含む)					法定耐用年数(40年)を超えた管延長・割合						
管延長(km)			布設率		管延長(km)			残存率			
①	東京都	12,220.4	①	東京都	41.8	①	大阪府	7,488.9	①	大阪府	30.5
②	愛知県	7,991.8	②	富山県	28.4	②	愛知県	7,428.4	②	神奈川県	24.1
③	埼玉県	6,785.8	③	神奈川県	24.1	③	神奈川県	6,291.2	③	山口県	19.7
④	神奈川県	6,277.1	④	青森県	24.5	④	北海道	6,129.8	④	奈良県	21.1
⑤	大阪府	5,300.4	⑤	埼玉県	23.2	⑤	兵庫県	5,290.6	⑤	香川県	22.3
			⑥	大阪府	21.6						

表一九 鉛製給水管残存状況(全国比較) 【平成 29 年度水道統計より】

残存延長(km)				残存件数(件)							
全体の残存状況(km)		公道部の残存状況(km)		全体の残存状況(件)		公道部の残存状況(件)					
①	兵庫県	508.0	①	石川県	316.3	①	大阪府	298,065	①	大阪府	112,039
②	石川県	402.0	②	兵庫県	214.6	②	兵庫県	236,227	②	兵庫県	60,073
③	宮城県	373.1	③	大阪府	191.0	③	香川県	136,307	③	福岡県	39,030
④	大阪府	365.2	④	静岡県	150.6	④	福岡県	117,220	④	広島県	39,484
⑤	香川県	339.0	⑤	神奈川県	114.9	⑤	神奈川県	111,724	⑤	神奈川県	34,881